

令和4年度第30回市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日 時】 令和5年2月20日（月） 18時15分 ～ 19時50分
【場 所】 厚東ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 山口県立宇部総合支援学校教員 : 箕越 美恵 田舎の小さなケーキ屋さん cocone 心音 店主 : 碓 芙紗枝 ニットソーイング教室 HC 宇部あとリエ千尋の海 代表 : 正田 千尋 農業研修交流施設「万農塾」農業研修生 : 屋代 真由美 厚東地区コミュニティ団体事務局 : 縄田 隆博 ○総合政策部 ○事務局（広報広聴課、厚東ふれあいセンター、地域支援員）
【概 要】 1 開会 2 出席者紹介 3 参加者と市長との意見交換 4 閉会
【意見交換・懇談】
○雇用の増加等について 【コミュニティ団体事務局】 ・厚東地区で、今1歳の子どもが小学校にあがるときに同級生が何人になるのか。 ・今後、市として、どのあたりに、どのようにして人を増やしていくのか。また、厚東地区などの中心市街地以外の地域に対し、どのような働きかけを行っていくのか。 【市長】 ・現在の1歳の子ども達が小学校に入学する時は、厚東小学校の1年生は8人の予定である。 ・「立地適正化計画」では、中心市街地に効果的に人口を増やすコンパクトシティを目指しているが、その計画の中で、厚東地区は「自然と暮らしの共生エリア」に設定している。厚東地区は、自然の中で子育てしたい人、テレワーク、ワーケーションやサテライトオフィスなどで働く人には良い場所である。 ・令和5年度から、中心市街地や北部地域に移住を望む子育て世代で、住宅情報バンクに登録している中古物件に住む人が対象となる等の条件に該当すれば、最大100万円までの補助金を予定している。移住希望者にウェブサイト等でこのような情報を届けていく。

○子ども達が20年後に帰って来られる環境づくり等について

【山口県立宇部総合支援学校教員】

- ・厚東地区は、特色ある学校教育や学童教室など、良さや魅力がある地域であるが、同時に課題もある。幼稚園・保育園・スーパー・病院等がなく、地域内に必要なものが揃っていない。
- ・北部地域全体の少子化と、少人数での学習に不安がある。小学校から中学校に上がった時に、それぞれの地区の良さが途切れてしまったり、子ども達が戸惑っている。クラブ活動も継続できず、様々な学習や体験の機会も少なくなる。高校生も含め、通学も困難である。
- ・「子ども達が安心して育ち、20年後も地区に帰って来られる環境」を整えてほしい。
- ・私学への流出もあり、地元根付いてほしいが地区外へ出ていく。思いがあっても仕組みが作れない状況であり、サポートしてほしい。

【市長】

- ・生活の地域内に全ての施設を整えることは、市内の他地区でも難しく、厚南地域を含めて考えてほしい。厚南地区から厚東地区への特認校制度の利用者が多い要因は、厚南エリアからのアクセスが良いことが考えられる。生活の利便性の向上には民間スーパー等があればよいが、行政が人を増やす努力をしても、出店は民間の判断となる。移動スーパーによって買い物支援を受けている地区もある。
- ・学校の統廃合等は、10年単位で丁寧に検討していく。子ども達にとって最適な環境とはどうなのか、適正規模・適正配置を検討しており、市の南部と北部とでは別に考えている。
- ・学習はデジタル化によって補い、曜日により2つの学校が集まって一緒に体育をすること等も考えられる。部活は、今後地域へ移行していき、学校ごとのチーム編成ではなくなる。
- ・子どもが中学校へ上がる時、地域から離れてしまうことについては、コミュニティスクールや子ども会のジュニアリーダーの仕組みを活用してほしい。子どものときから地域に関わり、思い出があるということが、地域に戻るきっかけになる。西宇部地区では、小中学生が米作りに関わり、収穫したお米を文化祭で売るということをしている。
- ・思いをまとめ、地域計画に位置付けてもらうことで、市も支援をしていく。

○移住・定住者の増加等について

【田舎の小さなケーキ屋さん cocone 心音 店主】

- ・厚東地区は自然が豊かで良いところだが、高齢者にとっては農業を引き継いでくれる人がいないという課題がある。県外から移住してきて、どのように農業に関わっているか情報がない。市にはどのような支援があるのか、支援内容を明示したら良いのではないかと。

- ・地区内に子どもだけで遊べる場所がない。親子で集える場所も必要である。
- ・特認校制度や学童保育は魅力的だが、どうやって連れていくのか。スクールバス等の支援をしてほしい。
- ・自然の中でのアスレチックや、厚東で取った木を活用するなど、あたたかみのある、厚東ならではの公園がほしい。地区が作るとなった場合、市は支援してくれるのか。

【市長】

- ・市としては、現在、山口宇部空港側に大型のインクルーシブ遊具を置き、公園を整備している。また、厚南地区に防災公園の整備を検討している。北部地域にも公園設置の声を聞いているが、令和4年度からはプレーカーを導入しており、このプレーカーは、遊具を載せ、希望地域を回れるので、イベント等でぜひ活用してほしい。
- ・子育て世代が集える場所は市全体で不足している。まずは、学校の校庭開放を活用してほしい。
- ・特認校制度は、特色ある学校で学ぶことを希望する子どもが学べるようにする制度である。遠距離通学の児童にはバス等の交通費支援制度がある。また、特認校制度については、北部地区のイベント等でもPRしていく。
- ・現在、北部地区の声をまとめるプラットフォームの立ち上げをすすめている。優先順位はあるが、霜降山や持世寺温泉の活用、竹を使った遊具等、地域からのアイデア・提案をいただきたい。

○住宅情報バンク（ウェブサイト）の充実、地区内のネット環境の整備について

【ニットソーイング教室 HC 宇部あとリエ千尋の海 代表】

- ・東京から移住して開業するために、インターネットで物件を検索したが、情報が少なく苦労した。市の住宅情報バンク等の情報は、以前に比べれば増えたと思うが、もっと増えてほしい。都会から田舎へ移住したい人は多いが、子育て世代にとっては学校のこと等の情報が少なく、不安も多いと思う。
- ・移住をしてくれる人が安心して来られるように、ネット環境を整えてほしい。5年先10年先を考えたとき、若い人が増えないと集落が維持できない。県外・地区外から厚東へ人を増やしてほしい。
- ・携帯電話のつながり具合が悪い。

【市長】

- ・厚東地区は、ケーブルテレビのFTTH（※）の利用が可能であり、120メガまで利用でき、一般家庭では十分な容量である。
 - ・携帯電話のつながりやすさのエリアは、メーカーごとに異なっており、今後、メーカーには要望していく。
- ※光ファイバーを活用した通信手段のこと。

○家探し、古民家の修繕費用の補助、就農について

【農業研修交流施設「万農塾」農業研修生】

- ・東京から移住する際、さまざまな県の移住セミナーを受けたが、市職員の熱心な対応で宇部市への移住を決めた。ただ、住宅に関する情報は、コロナ禍のため、ネットでしかなく、少なく感じた。生活に必要なインフラも整備されているものと思っていた。
- ・現在、古民家を自分たちでDIYしているが、DIYは人気があり、人を呼び込むためには良い方法であると思う。DIYにかかる費用に対する補助をしてほしい。
- ・万農塾で研修中だが、研修生の中には農地を探している人もいる。厚東の農地の情報が共有できれば、農業をやりたい若い人に活用してもらえ、厚東の魅力として発信もできる。農業に関するさまざまな情報をひとつにまとめてほしい。

【市長】

- ・持続可能で収入を得ることができる農業へ転換するため、令和4年3月に「農林水産業振興計画」を策定した。この計画は、農業者・農業団体だけでなく、物流や小売・飲食店まで巻き込んだ計画になっている。
- ・市としては、新規就農者、認定農業者、農事組合法人等への支援としては、さまざまな支援パッケージをつくっているのので、担当の農業振興課に気軽に相談してほしい。